校友時報

昭和41年2月12日
編集人兼発行所
秋田県能代市南町通分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

40周年 幕を閉ず

◇今年は創立四十周年という本校にとって重大な年であったと共に、在校生に◇
◇とって生涯わすれられない記念すべき年であったろうと思う。そのために校◇
◇内美化運動が盛んで、正門道路舗装や裏門が新しくできた。また今年は◇
◇「生徒会不振」という声がひんぱんに高まり、その対策のため伊東後期会長◇
◇は話し合いの場を大いに設けて関心を高めようと現在も活躍中である。◇
◇これから四十周年の色々な行事を思い出してみると共に、反省を重ねて四十◇
◇一年度をりっぱにやっていきたいものである。◇

四月七日、入学式、本校に三百八十七名（女二百七十名）の新入生が入学した。体育館での入学式には高柳校長ほか諸先生が出席、新入生たちは校長先生の話を聞いてあらたに高校生という緊張感を味わいつつ、これからの意欲を燃やしたのである。

次の日は二、三年生を体育館に集めて対面式が行われた。初めは拍手で迎えられたが次第に野次の連続、初日からこのような行動をとることは高校生として、また上級生として慎むべきではなかったろうか。

五月四日にはクラスのチームワークを発揮する春季校内体育大会が開かれ、種目は排球、柔道、テニスなどの七種目に熱戦が繰り広げられた。特に一年生の活躍が目立ち排球、籠球、庭球、マラソンの四種目に優勝を遂げ、良きチームワークぶりを示した。

今年は四十周年の年だったからであろうか学校側、とくに校内美化運動が盛んに行なわれた。その最初のものとして四月十日から着手された正門道路舗装があげられる。この工事は総工費六十七万六千八百円を投じて四月末に完成した。また夏休み中に新築された裏門もその一つであろう。でも数日ぐらいは近代的な門として喜ばれたがベンキが塗られたバラ線がとりつけられたりして次第に不満の声が高まっていったものの、裏門そのものは学校の威厳を高めたといえよう。

こうして第六回能高祭が九月二十一日から二十三日までの三日間にわたって盛大に行なわれた。この能高祭のため実行委員会は安井前期生徒会長を中心として準備がすすめられた。内容はほぼ例年どおりではあったが、前夜祭のフォークダンスやエレキギター演奏、演劇会が好評であった。特に一Aで行なわれた討論会などは近年になく珍しい試みであったと思う。この会は「まだ名もない本」主催によるもので、我々の周囲にあるいろいろな問題について話し合ったものでこのように生徒だけの話し合いの場を持つということは、これからの高校生活の上にもぜひ必要なことではないだろうか。

十月八日から九日にかけて恒例の十里強歩が行なわれた。今回はこの大会はじまって以来の三時間の壁が本庄君（二D）によって破られた。はじめは月夜で明るかったが途中で雨にあたりびしょぬれ、それでも学校を目ざして歩きまた走……。

去年は「生徒会不振」という声がひんぱんに高まった。そういう中で後期生徒会が組織されることになって、会長に大久保博司君（二B）、伊東恭悟君（二C）、副会長に大塚健三君（二B）がそれぞれ立候補して十月十二日に投票が行なわれた。その結果副会長は大塚君に決定したが、会長では伊東君が過半数に満たなかったので翌十二日に再度投票が行なわれ、結局伊東君が後期新会長となった。この投票で感じられることは無効棄権が非常に多かったということである。こういう傾向は遺憾に思うと共に、これからの役員選挙および生徒会活動に協力的精神を持ってもらいたいと強く要望するものである。

こうしてみると去年はいろいろ反省される面が多かったと思う。これからは去年の反省を生かし四十一年度をより良い年にするようがんばろうではないか。

『巨濤』編集終わる

「巨濤」第八号の編集はすべて終わり一月十四日発行の運びとなった。

今回の「巨濤」の内容は特に例年と変った面は見られない、文化祭の反省、各部報、一人一言などである。また今年度は本校の創立四十周年であった関係上、〝四十周年をふり返って〟ということが中心的に取り上げられた。

「巨濤」の編集は企画部員と一年生有志で構成され、十一月二十四日の第一回編集会議を皮切りに八代編集長を中心に二か月余りを費やして進められて来たわけだが、取りかかりが例年より二十日近く遅れたことや、冬休み期間の計画が思ったようにはかどらなかったこと、また編集委員があまり多くなかったことで、三学期にはいってから相当に苦労したようである。それだけに校正が終わった後の編集委員の顔には安堵の色が見られた。

「巨濤」は全校生徒に無料で配布されることになっている。

× × ×

予餞会近し

三年生を送る予餞会は一月十四日（月）午後〇時三十分より一時間の予定で本校体育館において開かれる。伊東生徒会長、安井前期生徒会長のあいさつに続き、クラシックギター、エレキギター、ブラスバンドの演奏やのど自慢などの余興が行なわれる。近年の予餞会は三年生を楽しい思い出、共に送る」という主旨を達せ得ぬまま終っているようである。特に去年はその傾向が強く、あまりにもひどい酷似があった。話しをする人や演じる人さえないやじが飛び、紙くずやとべつが投げられた。本来快よく卒業生を送るべきものを在校生が先に立って退場するし、その立ったあとには小さくちぎられた紙くずが一面にちらばっていた。予餞会を計画した生徒会の計画性のお粗末さも問題があった。今回は今までの欠点を改めようと二Bの大久保博司君を中心とする生徒会幹部は三学期が始まる同時に計画し始めて来た。だが、あくまでも予餞会は全校生徒が参加し、三年生を送るものである。結局生徒一人一人の自覚によることは、今更言うまでもない。とかく予餞会などでは気持がゆるみやすい。特にのど自慢など生徒が開放された気分になるだけに充分気持を引き締めねばならない。何れにせよ、常識ある生徒の態度で三年生の最後を快よく送りたいものである。

なお、本校度は在校生から卒業生への記念品として、女子の要望もあり男女共校章入りのバックルが送られる事になった。

時評

受験期を迎えて

大高芳雄

ことしも入試が数々の問題をかかえて目前にせまってきている。

現役五十万四千、卒業十一万四千合計六十二万八千と推定されるスチューデント津波の第一波が大学の扉を門におしよせ、加えて初めての新教育課程の実施、理科社会の科目指定の問題もあって、質的にも量的にも苛酷な試練が予想される。これに対し文部省では入試緩和の改善策として大学生の増募計画、まるA推薦制度を打出している。推薦制度に対し大学側では最初のうちは時期尚早をとなえておあまり好意的でなかったが、九月初め東大で開かれた国際大学総会で各国から日本の受験地獄に対して強い批判がよせられてから大学側の態度が大きく変ってきた。

慶応大学工学部ではいちはやく内申書重視のこの制度を取り入れ、推薦者百十八人全員の合格を決定入学手続を完了した。このように僅か乍らも入試改善の兆しがみえてきており、ながらくの間、この問題にひきずりまわされてきた編のある高校教育も、このあたりでその自主性の確立を目ざした反省が行なわれようとしている。入試の弊害を取りのぞこうとする機運が生じたことは受験生全体からみればきわめてわずかである。今の段階ではこの制度を肯定しないまでも全面否定するわけにゆかないのである。入試は容赦のない非情のものである。入試における得点分布の型を考えると、試験三百人とる時、その中百人はどんなコンディションでテストをうけても合格圏に入るグループである。その次の三分の二とそれに続く三百人位はどんぐりの背比べの場合が多く、五百点満点のところ三百点が最低点で、そのあたりに二十点のところにちらばっている。ここで十の力を九だすか八だすかでは大いに合否に関係を持ってくる。さらに限界状況を考えると、僅か一点のところに多くの人の運命がひしめきあっている。このように入試は低いところであるわれるものであり、しかも一点で運命が決定されるという厳しい現実を前切り切って考えねばならない。従って受験する者はおせる心を押えて用心深くしまらないのない短打戦法をとらなければならない。要領のよい賢そうな方法をとらず徹頭徹尾こつこつかすこつやることが栄冠を勝ちとる要訣である。（数学担当）

学生のみせ
キムラヤ
はたまち　2－5535

クラシック
ジャズ
ポピュラー
民謡
歌謡曲
ステレオ
オルガン
ギター
etc
アサヒ楽器店
畠町　T2－2275

冬こそ体を鍛えよう
スキー
スケート靴
エキスパンダー
バーベル
能代スポーツ
柳町　T2－4613

新鮮な明治牛乳
コーヒー牛乳
hotでどうぞ
購買むかい
菅原牛乳
出戸沼　T2－3851

漢方薬
and
科学の粋を
集めた薬
大越薬局
柳町　T2－5016

洋菓子のエース
No. 1のパン
A1 エーワンベーカリー
大町　T2－2343

腕を
信用して下さい
キットパスします
カメラ部も
ご利用下さい
佐藤写真館
大町　T2－2433